

本日の流れ

◆自己紹介

◆ナマステ江戸川区

【ナマステ江戸川区の活動を通じて見えてきた地域課題と、今後の取り組みの方向性】

自己紹介

- ◆ 2008年3月 専修大学 経済学部国際経済学科卒業
- ◆ 2008年4月～2013年6月 インド
 - 日系企業で働きながら、語学学校へ
 - インド国立ジャワハリラール・ネルー大学大学院 国際関係学研究科経済学専攻修士課程退学
 - インド国立デリー大学大学院 社会科学研究科ソーシャルワーク専攻修士課程修了
- ◆ 2013年10月～2023年10月 海運業界（インド担当）
- ◆ 2025年～株式会社ゴーゴーインディア 兼 ナマスデ江戸川区（2020年11月～6年目）
（長崎大学/非常勤講師・流通経済大学/客員講師）

ナマステ江戸川区

～日本とインドの思いやりのある共生社会の実現～

《インド人との共生のためのヒント》

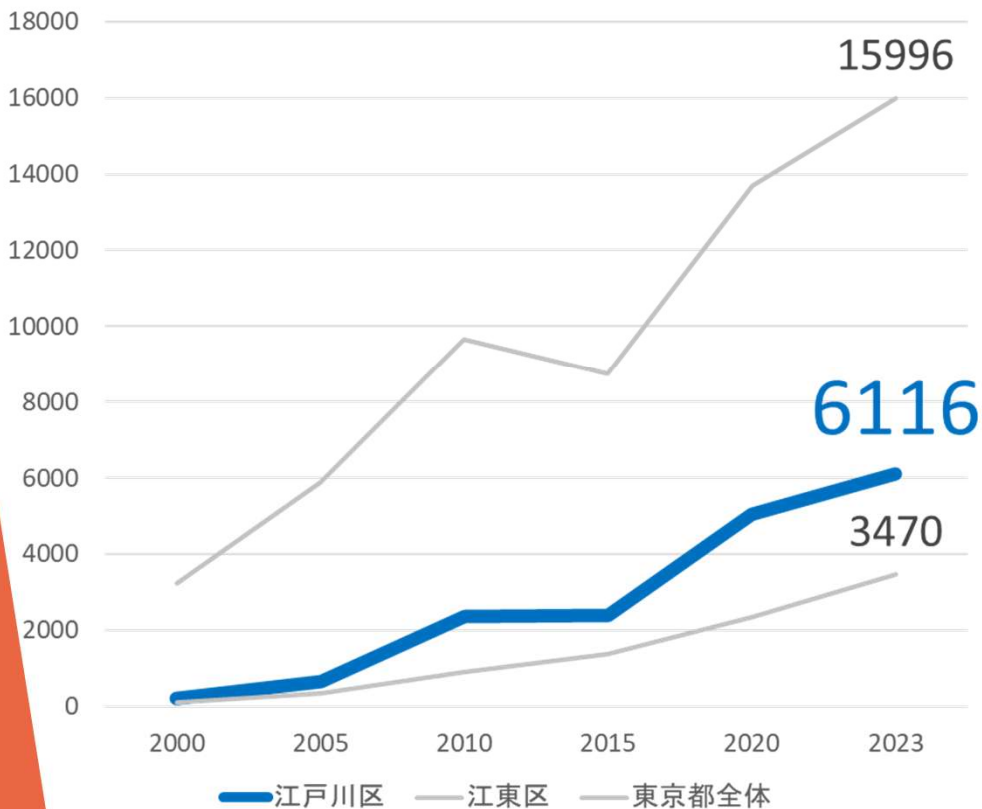
ナマステ江戸川区 3つの活動

- ◆文化交流
- ◆HOME VISIT
- ◆生活サポート



現状の課題

東京都内日インド人推移

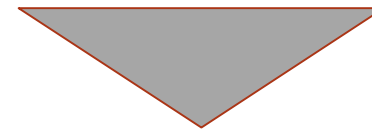


東京都ホームページ統計より

江戸川区&江東区に
東京都の**約70%**のインド人在住

* 2025年：江戸川区 約8,000人/江東区 約4,000人

毎年 約1,000人ずつ増



日本人とインド人の共生が大切

現状の課題（江戸川区の特徴）

◆ 家族での在住（永住 or 短期）

→旦那様はITエンジニア（80%以上）、奥様とお子さん2人の4人家族が多数

*背景としては、

2000年問題（Y2K）時代にITエンジニアとして来日したインド人が増えたことが大きなきっかけとされています。

→富裕層の方々

→州ごとのグループ

◆ 地域住民とのトラブル

→しゃべり声がうるさい

→最近は一戸建てを購入されるインドの方々が多く、防災、自治会との連携が課題

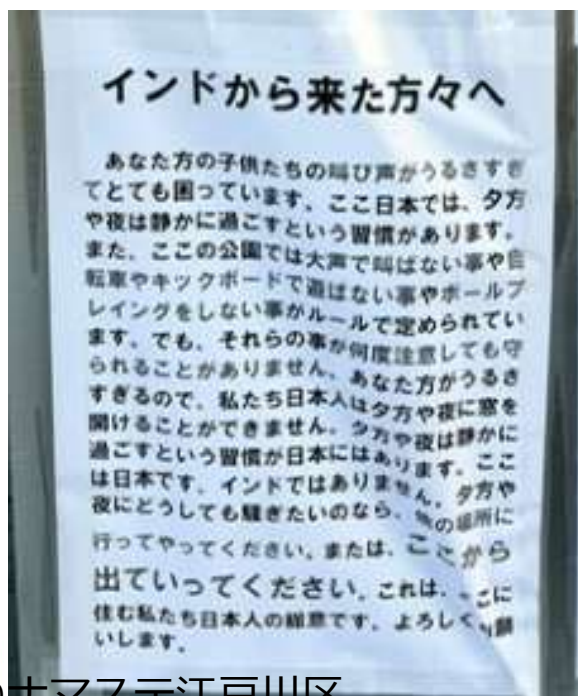
価値観の変容

- ▶ 30代後半～40代：4人ひと家族が中心、給与中心
- ▶ 20代～30代前半：
単身が多く（女性も多い）、
給与以外の日本文化（アニメ・漫画）を好む

日本人住民とのトラブル

～共生の難しさ～

江戸川人生大学（江戸川区が運営・管理）等とも連携して、外国人住民に対する理解向上セミナー、卒業生が市民団体を設立する等のインフラが整っている。



日本で生活する上で、インドの方々の困り事とは？

- ▶ これなるべく早めにやっておいて（仕事上）→曖昧な表現
- ▶ 上司をニックネームで呼んでいいの？ →人間関係
- ▶ 大丈夫です →YES or NO ???
- ▶ 家に来てください →本当に行ったら驚かれた。

* コミュニケーション、文化ギャップ

北海道・浦河町（特徴的な地域）

- ▶ 約300人のラジャスタン出身者、浦河町人口の3%を占める。
- ▶ 浦河町は日本有数の馬産地であり、競走馬の育成は地域経済の重要な柱。インドは近代競馬が盛んな国（イギリス）であり、多くのインド人が馬を扱える技能を持っている為、馬産地である浦河町とインドの競馬文化が関連している。
- ▶ 浦河町はインド人の生活支援や、ヒンディー語での行政サービスなども行い、より良い環境を整えている。

* その他地域：神奈川県川崎市、横浜市 霧が丘団地、福井県等の地方



根本原因

◆言葉の壁 & 文化背景

◆インド人の特徴

(“インド”と一括りでは解決できない問題がある)



多様性の国 インド



ナマステ江戸川区：解決策**3**つの特徴





文化交流

日本とインドの教育の違いについて

- ◆座学より実践が多い 例) モンテッソーリ教育
- ◆理系科目が多い (数学、化学、IT等)
- ◆多言語教育
- ◆日本人学生も増加中 (掃除時間なし)





HOME VISIT

生活サポート

- ▶ 就労相談（女性の方々、難民）
- ▶ 公的手続きの相談（学校設立、在留資格等）
- ▶ 仕事上や人種差別等についての相談

ご清聴ありがとうございました。